

2017.7.27

全国1級河川165地点調査

大淀川の水質116位

10年

国土交通省は28日、生物化学的酸素要求量（BOD）を指標とする2010年の1級河川とその水系の水質現況を発表した。本県では大淀川が全国165調査地点中116

位で、09年の150位から順位を上げた。小丸川は14位（09年28位）、五ヶ瀬川が16位（同17位）、川内川は24位（同101位）だった。BOD平均値が減少し、水

質改善が裏付けられたことについて大淀川を管理する宮崎河川国道事務所は「年間を通して降雨量が多かったため、河川の汚れが希釈されたのではないかと分析。川内川を管理する川内川河川事務所も同様の見方を示している。

大淀川の1地点あたり平均BODは昨年より0.5リットル減って1.1リットルだった。九州の28調査地点では17位（同23位）。河川の特徴としては宮崎市など下流域に比べ、都城

市など下流域の水質が悪かった。川内川の平均BODは昨年より0.4リットル減り0.6リットル。九州では4位（同24位）だった。九州での順位は小丸川2位（同4位）、五ヶ瀬川3位（同2位）。調査地点の一つ大淀川の支川・本庄川は、全国24位（同36位）、九州では4位（同5位）だった。